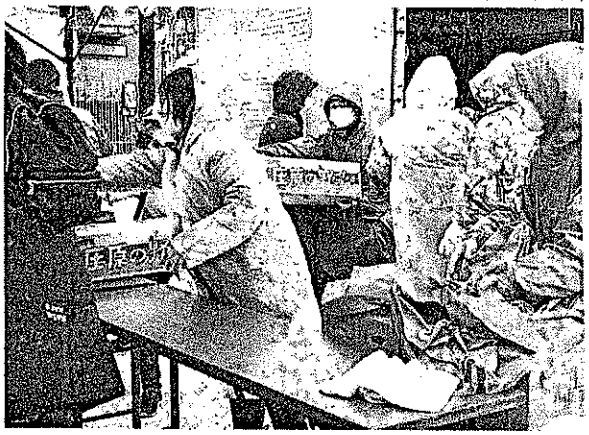
3/8 朝

″生活保護受け体調治したい″
″失業給付切れ子の食費心配″
″DV被害、話す人もいない″

女性のための相談会 不安次々

東京都内で13、14の両日開かれた「女性による、女性のための相談会」（主催・同実行委員会）には、2日間で125人から相談がありました。

特徴は、▽不安定雇用のためコロナの影響で仕事がない▽家族から虐待や暴力などを受け、心身も不調になっている▽お金がなく医療機関に行けない▽生活保護の影響を心配して支援を受けられない人がいる―などです。



支援物資を運び込むボランティアの女性ら＝13日、東京都新宿区

具体的な事例では、ネットカフェ住まいの人は「住まいをみつけたい。仕事はバイトしている。生活保護の申請をして安心したい。体調を崩しているのでその治療を再開したい」と話しました。

「仕事がなく、所持金は数千円」という30代の人は、「派遣が昨夏に契約終了。数年働いていたのでショック。体調が不良。自治体の支援を今後使う予定」だと語りました。

30代のシングルマザーは「昨秋に会社都合で退職させられ、失業給付が切れる。子どもの食費や制服にお金がかかる」と話し、公的制度や支援団体の情報を求めてきました。緊急小口資金や支援団体の紹介を受けました。

50代の人は、「DV被害あり。手に職があるが雇ってもらえない。身の上を話す人がいない。内職、掃除、物流の仕分けなど単発の仕事しかない」。相談者に「こんなに優しくされたことはない」と話しました。

職場でセクハラを受けていた人は、「『あなたが悪いのではない』と言われ、自信を得られた」と感想。「仕事が見つからないのはえり好みしているから」と自分を責めていた人は、「労働力の安売りになるので、その仕事を選ばなかった判断は正しい」と言われ、明るい表情を浮かべたといいます。